

病理専門医制度運営委員会だより（第43号）

1. 2025年度病理専門医試験について：

2025年度を受験資格審査が終了しました。従来から死体解剖資格の認定が遅い事が問題となっていました。今年は書類不備の差し戻し段階で、書類が大幅に滞る事例がありました。そのため、資格未着状態での受験申請を認めましたが、資格の到着期限である5月末日までに最終的に届かなかったケースがありました。当該の申請に関しては、残念ながら取り下げ扱いとなりました。死体解剖資格の申請プロセスの改善を働きかけるとともに、解剖資格未着の状態でご迷惑な事など、来年に向けて議論をしていきます。

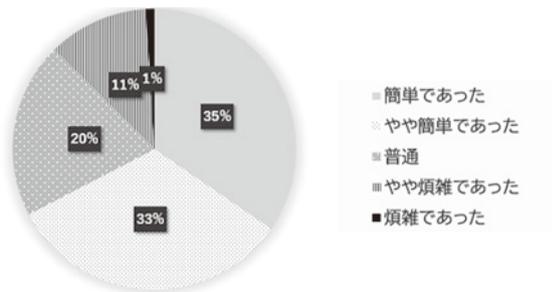
2025年度の専門医試験は、8月23、24日（土、日）に東邦大学大森キャンパスで実施します。詳細は受験生に送られた案内をご参照ください。

2. 病理専門医資格更新について：

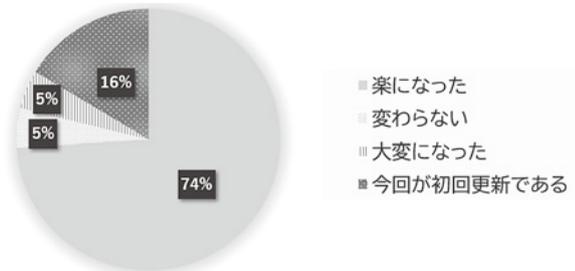
専門医更新の申請方法は電子と紙媒体の選択制です。昨年度は37%の先生が電子申請を選択されました。電子申請者の68%は、電子申請での書類作成はやや簡単～簡単と回答しており、74%の先生は紙申請よりも楽になったと回答されました。

2024年度更新電子申請者に対するアンケートの結果

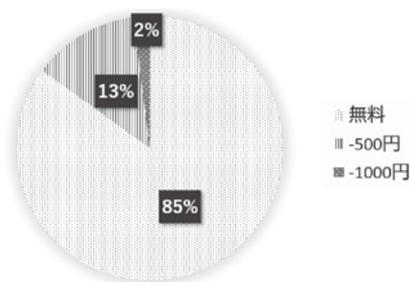
1. 今回の電子申請手続き全般の煩雑さ・大変さはいかがでしたか？



2. 郵送方式の更新申請と比べていかがでしたでしょうか？



3. 今回の更新の準備にあたって印刷・PDF化などに必要な費用はどれほどでしたでしょうか？



更新対象者には8月下旬に電子と紙媒体のいずれかを選択するメールが届きます。電子申請を選択の場合は後日申請サイトへのログインアドレスが送られ、紙媒体を選択した際は後日更新書類が郵送されます。メールでの選択回答がない場合、あるいはメールが不達の場合は自動的に紙媒体での手続きになります。いずれの場合も必要書類は同じですが、電子申請の場合は入力などが容易である一方、受講証などの書類をpdf化する必要があります。更新手続きの詳細は（<https://pathology.or.jp/senmoni/koushinkijun.html>）をご確認ください。電子申請の具体的な操作方法については、8月ごろホームページに掲載されます。WEB説明会を9月下旬に開催する予定です。今年度の更新対象者にはメールでご案内いたします。以下に更新手続きの注意事項を記載します。

更新手続 QR コード



生涯学習 QR コード



- ・2025年秋に更新をされる方は、2020（令和2）年11月～2025（令和7）年10月までに取得した単位しか認められません。
- ・単位不足で更新が困難な場合、あるいは過年度までに学会専門医の更新をせず今回専門医復帰を希望される方は、必ず事前に事務局までご相談下さい。
- ・連続3回以上の更新を行った方（今回が4回目以降の更新の方）は、診療実績の症例提出の代わりに病理学会 HP の生涯学習を受講で10単位とすることが可能です。

<https://e-learning.pathology.or.jp/course/index.php?categoryid=5>

生涯教育を受講して一定の得点に達しますと受講証明書が発行されますので、この証明書をアップロードまたは添付してください。

- ・2017年度以降の研修開始者で2021年度以降に認定された専門医は共通講習Bの5科目（各1単位）の受講も必須になります。
- ・共通講習に関しては、不足分の単位は専門医機構によるWEB学習をご利用ください。

<https://jmsb.or.jp/senmoni/#an11>

- ・臨床細胞学会から発行されたWEB受講の「共通講習」は一部で専門医機構に認定されていませんのでご注意ください。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/20221021info.pdf>

- ・「希少がん e-ラーニングも領域講習の単位となります。

<https://rarecancer.pathology.or.jp/>

希少がん病理診断画像問題で取得した単位は、自動で登録されますので、単位の添付やアップロードは不要です。希少がん e-ラーニングで認められるのは最大15単位までです。

希少がん QR コード



- ・2015年度以降の研修開始者は50単位分の他に以下提出が必要です。

- 2020年9月26日認定者：
病理解剖10体のリスト・病理解剖報告書（2020年9月26日以降の症例）。
- 2021年4月1日認定者：
病理解剖10体のリスト・病理解剖報告書（2021年4月1日以降の症例で受験申請に使用していないもの）。剖検講習会（病理学会春総会オンデマンド）の受講証（課題提出不要・領域講習の受講証可）。

※病理解剖10体は自ら主執刀した症例以外にも、副執刀や指導で関わった症例が対象です。該当者となる先生には別途連絡が行きますので、手続きをお願い致します。

3. 2026年度の病理専門医受験申請について：

2026年度病理専門医試験受験申請（電子申請）は従来通り2026年4月1日より5月1日までを予定しています。2026年3月ごろに要綱を公開し、4月上旬にWEBでの試験申請書類提出ガイダンスを行いますので、受験される方はぜひ参加して

いただきたいと思います。

受験申請に関して現段階から進めるべき重要事項を2点記載します。

1) 死体解剖資格に関して：厚生労働省医道審議会で審議されますが、かなりの時間を要します。4月末の受験願書締め切りに間に合うように、死体解剖資格の要件を満たした時点で直ちに申請をしてください。「主に法医解剖」とした死体解剖資格をお持ちの先生も、「主に病理解剖」の死体解剖資格の申請が必要です。こちらでも可及的速やかに申請してください。

2) 業績に関して：要綱には定義が記載してありますが、すべてを定義することはできません。審議の結果認められない可能性もありますので、できる限り疑義の生じない業績をご準備ください。「診断病理」への投稿、病理学会総会での発表（筆頭・共著を含む）、全国7支部支部会での発表（筆頭）を積極的に行って頂くようお願い致します。

4. 希少がん診断のための病理医育成事業について

1) 希少がん e-learning について：

職場あるいは自宅でも学習可能で、専門医更新のための領域講習の単位（最大15単位）になります。「疾患名入力」により、逆引きとして画像を参照することも可能ですので是非ご活用頂き、日常診療および希少がんの病理診断力の向上にお役立て下さい。

・「希少がん病理診断画像問題・解説（病理学会希少がんHP）」を受講の際に病理領域講習の単位を付与します。

・現在（6月時点）は骨軟部腫瘍（34コース）、脳腫瘍（22コース）、小児腫瘍（32コース）、頭頸部腫瘍（31コース）、皮膚腫瘍（31コース）、リンパ腫（34コース）、希少サブタイプとして婦人科と乳腺が各7コース、消化器、呼吸器が各1コースずつの全200コース（1コース：10問）あります。

・8割（8問）以上の得点で合格となり、1コースにつき領域講習1単位が認定されます。

・8問以上をクリアするまで何度でも繰り返し受講することができます。

・取得単位は病理学会会員システムの「単位」欄に自動的に反映され、更新の際に単位を印刷や添付するなどの手続きは不要です。

・希少がん診断のための病理医育成事業ホームページ「コースカテゴリ」から会員システムのID、PWを用いてログインし、履修することができます。

<https://rarecancer.pathology.or.jp/>

2) 「希少がん病理診断講習会」について：

年間5回開催されています。事前申し込み制です。詳細は希少がん事業のHPをご確認ください。全て受講した方には病理領域講習4単位が付与されます。また病理専攻医の病理診断に関する講習会にも該当いたします。

5. 細胞診講習会について：

2025年度細胞診講習会は2026年1月24、25日に札幌医科大学の渡邊麗子先生世話人のもと開催されます。詳細については今後HPなどで情報を公開する予定です。病理専門医受験予定者は原則受講必須の講習会となりますので受講忘れのないようご注意ください。なお臨床細胞学会主催「細胞診断セミナー」受講者及び細胞診専門医取得者は、本講習会の受講は免除されます。

6. 専門医研修制度について（再掲）：

専攻医の採用が決定しましたら、プログラム制・カリキュラム制を問わず、専攻医自身が確実に専門医機構へ専攻医登録をしてください。登録時期は研修開始年度前年の秋（11月頃）です。登録が遅れた場合の猶予はなく、1年単位で専攻の修了が遅れることになり、かつ未登録時点での経験症例はカウントされません。採用が決まった時点で直ちに専門医機構への登録も忘れずをお願いします。

前回まででもお知らせしてきましたが、カリキュラム制度による採用が緩和されています。すでに他の基本領域の専門医資格（内科の場合は認定医も含む）所有者（病理専門医とのダブルボード取得を目指す方）だけではなく、妊娠・出産・育児・介護・本人の疾病などでもこの制度を使うことが可能です。プログラム制で採用された専攻医も留学、妊娠、出産等の特段の理由がある場合、カリキュラム制への移行も可能です。ただし、カリキュラム制の方もプログラム制の方と同様に、専門医機構への専攻医登録を行い、システム上で採用していただく必要があります。また病理学会入会後に研修届を提出し、研修手帳を受け取ってください。カリキュラム制度で採用する場合でも原則として教育資源（特に剖検数と指導医数）の確実な確保は必要です。カリキュラム制に関する詳細は病理学会ホームページをご確認下さい。

<https://pathology.or.jp/senmoni/curriculum.html>

7. 分子病理専門医認定制度について

・分子病理専門医認定者名簿を掲載しています。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/certified-pathologist.html>

・2025年度 第6回分子病理専門医試験は以下日程で実施予定です。

2025年12月14日（日）（ビジョンセンター東京京橋）。

試験要綱は2025年4月1日に公示済みです。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/20240401mp-info.html>

対象者：病理専門医、口腔病理専門医

<https://pathology.or.jp/senmoni/bunshibyouri.html>

8. 専門医機構の動向について

○専門医試験受験年限・回数の制限について：これまで学会主導の専門医試験の受験回数に制限はありませんでしたが、2017年度以降の専門医機構での研修開始者は、今後は研修修了後5年以内（受験回数5回以内）が受験資格となります。育

児や介護などやむを得ない事情がある場合は、1年単位での延長は可能です。今後は2016年度以前の研修開始者も対象となる可能性が高いため、研修修了後5年以内に専門医資格を取得するようお願いいたします。

○2023年7月以降に専門医資格の認定・更新がされた方には、医師免許証と同様、戸籍名の後に括弧つきで旧姓の併記が可能になりました。詳しくはJMSB Online System+でご確認ください。

<https://sys.jmsb.or.jp/trainingProgram/html/index.html>

9. 今後の日程について：

・希少がん診断のための病理医育成事業では引き続き希少がん病理診断講習会を実施しております。すべて事前申込制で、定員以上の申し込みの場合は抽選となります。希少がんHPでご確認ください。

<https://rarecancer.pathology.or.jp/>

また、2025年度は5領域にて主に若手を対象としてエキスパート育成講習会を対面で開催いたします。こちらも詳細は希少がんHPにてご確認ください。

・第14回ゲノム病理標準化講習会：

2025年7月1日（火）～31日（木）（オンデマンド配信）

・第3回分子病理専門医更新講習会：

2025年7月27日（日）WEB開催

・第21回日本病理学会カンファレンス：

2025年7月25日（金）、26日（土）（松山市）

・第14回分子病理専門医講習会：

2025年8月9日（土）WEB開催

・第19回診断病理サマーフェスト：

2025年9月6日（土）、7日（日）

（東京・オンデマンド配信）

・第15回分子病理専門医講習会：

2025年9月21日（日）WEB開催

・第4回分子病理更新講習会：

2025年10月19日（日）WEB開催

・第3回分子病理診断講習会

—分子病理を学びたい人のために：

2025年11月23日（日）WEB開催

・第71回秋期特別総会：

2025年11月13日（木）、14日（金）（名古屋）

・2025年度細胞診講習会：

2026年1月24日（土）、25日（日）WEB開催

（文責：森井英一・大橋健一・粕雄一朗・中黒匠人）

== 特集 分子病理専門医試験 合格体験記 =====

第5回分子病理専門医試験を受験して

北海道医療大学看護福祉学部 守田 玲菜

このたび、分子病理専門医試験体験記を寄稿する機会をいただき、誠にありがとうございます。

私が受験を決意した背景には、日々の診療を通じて、がん医療における分子診断の重要性が年々高まっていることを強く実感していたこと、さらに、現在、私は医療系大学において、看護師およびがん専門看護師の養成に携わっておりますが、近年、授業中に分子病理に関連する質問を受ける機会が増えてきたことが契機となりました。とりわけ、がんゲノム医療に関心を寄せる学生が看護系にも年々増加しており、それに対して正確かつ根拠に基づいた知識で応える必要性を痛感しておりました。教育に携わる者として、教える側こそ深い理解に基づく知識が求められるとの思いが募り、一念発起して受験を決意いたしました。

本格的に学習を開始したのは8月頃と遅めのスタートではありましたが、過去に合格された先生方の体験記やブログを参考にしながら、各種講習会のテキスト、22CEMITのエキパネ症例集、『がんゲノム病理学（文光堂）』、ここ数年の『病理と臨床』や『診断病理』の各腫瘍の分類に関連した特集・総説などを活用して学びを進めました。あわせて、札幌医科大学附属病院で毎週開催されているエキスパートパネルに継続的に参加させていただき、実際の症例を通じて理解が不十分な点の一つひとつを確認し、着実に知識を深めるよう努めました。現場でのディスカッションを通じて、断片的な知識が有機的につながり、分子病理診断が果たす多面的な役割を体感できたことは、非常に貴重な経験となりました。

試験はマークシート形式と記述式設問のいずれも、広範で深い知識と基礎的理解の双方が求められる内容でした。手応えとしては決して十分とは言えない部分もありましたが、限られた時間の中で自分なりに準備を重ね、何とか試験に臨むことができました。あらためて、コツコツと学び続ける姿勢の大切さを深く実感しております。

最後になりますが、受験にあたり温かいご支援とご助言を賜りました鳥越俊彦先生をはじめ札幌医科大学病理学教室のスタッフや同門の先生方、また、エキスパートパネルへの参加をご快諾くださいました札幌医科大学腫瘍内科学講座および遺伝子診療科、連携病院の先生方、これまでさまざまな場面でご指導を賜りました先生方に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

第5回（2024年度）分子病理専門医合格体験記

旭川医科大学病院病理部・病理診断科 林 真奈実

この度は分子病理専門医試験合格体験記執筆の機会を頂きまして、誠にありがとうございます。僥倖ながら経験を紹介させ

ていただきます。

私は医師7年目、病理医5年目で受験いたしました。当時エキスパートパネルに出席した際あまりの知識不足に愕然とした記憶があり、分子病理専門医試験受験に対して危機感を覚えまして。ただ実際は本腰を入れて勉強を始めたのは試験の1か月前頃で、分子病理専門医講習会から継続して勉強しておけば…と後悔するも遅し、でした。

具体的に用いたものは「分子病理専門医講習会テキスト」「ゲノム研究用・診療用病理組織検体取扱い規定」「がんゲノム病理学」の3点でした。I型問題はテキストのかなり細かい内容から問われる印象があり、一見黒字で強調されていない部分もくまなく確認しました。

II型問題に関してはC-CAT結果から解釈及び二次的所見の記述、組織学的特徴、治療選択を記述するより実践的な内容であり、主に「がんゲノム病理学」の症例問題や「分子病理専門医講習会テキスト」の記述問題対策を用いて極力手を動かして記載するようにしました（独特の表記が多いため）。

実際の試験では、I型問題は比較的新聞が多く出題されたようにと思います。多肢選択問題が多く正確かつ緻密な知識が要求されるため、I型対策は早めの方が望ましいのかもしれない…と試験中に後悔しました。II型問題ですが、4問中1問で全く聞いたことのない単語が出現し諦めかけたのですが、試験会場にいらした佐々木 毅先生が「II型問題は加点方式です、I型失敗した人も諦めないでください」とお声がけくださり、聞き直して持ち得る知識をフル動員して回答枠を極力埋めました。試験後の感触はよいとは言えないものでしたが、結果としてI型問題70%程度、II型問題80%程度とれていたのも最後まで諦めないことが重要なのかもしれません（主にII型問題）。総観としては前年度までと問題の傾向が変わっている部分もそれなりにありました。

以上拙文ではございますが、試験対策及び試験当日について述べさせて顶きました。参考になる内容がございましたら幸いです。

今後更に発展の見込まれるゲノム医療に対応できるよう、今回の受験をスタートとして精進してゆく所存です。エキスパートパネル参加や試験に関するご助言など、お力添えいただいた諸先生方に対し、この場を借りて御礼申し上げます。

第5回分子病理専門医試験受験体験記

福島県立医科大学医学部病理病態診断学講座

鈴木 エリ奈

死体解剖資格・病理専門医・細胞診専門医 この三つが揃ったとき、受験から解放されたとうかつにも安心していました。しかし、コンパニオン診断やエキスパートパネルが日常となり、分子病理学が診断病理に密接な関係を目の当たりにし、系統的に学ぶ必要を感じるようになっていきました。昭和に生まれ知

力体力が失われる中で、分子病理学の再勉強を行うタイミングはもう今しかないと思われ、受験に踏み切ることになりました。確か令和6年4月ごろだったと思います。

勉強法に悩んでいた中で、第4回試験を合格された先生のウェブサイトを見ました。このサイトでは勉強の進め方が詳細に記録されており、大変参考になりました。このサイトは検索エンジンでかなり上位に表示されています。正直なところ、このサイトを見つけないと受験を諦めていたと思います。執筆なさった先生に、この場を借りてお礼を申し上げたく存じます。そのようにして、がんゲノム病理学を通読するところから取り掛かることになりました。

8月に分子病理専門医講習会を受講しました。テキストの難しい部分には注釈を加え、今後の勉強の軸として繰り返し見直すようにしました。

ゲノム病理標準化講習会は数年前に受講していたため、今回は学会HPからゲノム研究用病理組織検体取り扱い規程を読み、eラーニングで確認しました。

宿泊先は会場から徒歩圏内を探し、ひと月前に予約しました。ただ、宿泊費は高騰していました。ともかく、無事に試験当日を迎えることができました。

試験当日は京橋駅周辺のごみはあまりありませんでしたが、京橋駅から会場までは少し複雑なため、余裕があれば前日のうちにルートを下見することをお勧めいたします。なお、座席によっては会場の掛け時計が少し遠いため手元に腕時計などがあるとよいと思います。

I型問題は90分で60題の選択肢問題を解く形式で、計算問題がいくつか出題されていました。時間が足りず見直しはできなかったため、せめて解答欄のズレや漏れのないようにと折った記憶があります。

II型問題では120分で4人の症例の、C-CAT報告書の抜粋から遺伝子異常の振り分け、検出されたバリエーションの意義を問う記述問題などが出題されました。がんゲノム病理学やCEMITのエキパネ症例集の例題を繰り返したおかげで、少なくとも精神的には落ち着いて解答を進めることができました。

かろうじて合格に滑り込むことができましたが、分子病理医を名乗れる段階には未だ至らず、分子病理更新講習会などを利用して勉強を続けます。

最後に、寄稿の機会をお与えいただきありがとうございます。拙い記録ですが他山の石となれば幸いです。受験される先生方が順調に専門医を取得されますようお祈り申し上げます。

2024年度分子病理専門医試験 合格体験記

さいたま赤十字病院病理部 菊地 淳

自施設においては業務の合間を縫っての受験対策は容易とは言えず、余裕を持って高得点を狙うような勉強ではなく、合格に必要な最低限の勉強をしたつもりです。その結果、選択問題

と記述問題の部分点で救われ無事合格域に滑り込むことができました。今後受験を予定している同じような状況の方や、十分な時間をもって対策するつもりでも最低限目を通すことをお勧めする点という意味などで、多少参考になるかもしれないことを以下に記します。

参考にした書籍はがんゲノム病理学(文光堂)で、練習問題が掲載されていることに惹かれ選択しました。一部の章以外は複数回通読し、練習問題も分からないものがないよう復習しました。この本と並べて、第12回分子病理専門医講習会のテキストと一緒に読み進めました。あとはこれまでの講習会テキストに掲載されている過去の記述問題や、先に受験した先生方から聞いた出題内容や傾向に関する話やメモも大いに参考にしました。自施設のEPは外勤日の関係で受験に必要な回数以外はほとんど出席できず、実際のがんゲノムレポートも見よう見ようと思いつつ気付いたら試験当日といった感じで、十分に目は通しませんでした。

上記の書籍と講習会テキストの2冊をなんとなく全体的に理解し、これくらいやれば大丈夫だろうという気持ちで試験に挑みました。その結果、午前中の選択問題は、合格ラインは越えたかなという安心感を得られる程度の出来でした。従って、これらの教材に書かれていることをだいたい覚えていれば選択問題の点数はとれると思います。出来なかった問題に関しては、あ〜これテキストのあそこを書いてあったことだ、ということが何度かありました。講習会テキストに記載があることは小さな字で書かれていることであってもかなり隔々まで出題されると思います。

午後の記述問題は、分からないからとりあえず次の問題だ、を繰り返していたらあつという間に一周してしまい冷汗をかきました。診断経験のない珍しい遺伝性腫瘍も出題されていましたが、知っている疾患の問題はとにかく知っていることを書き、妄想を駆使して時間いっぱいまでがむしゃらに記述した結果、試験結果をみると意外に点数がもらえていたので、部分点の重要性を感じました。保険収載されたばかりで目にしたことのないCGPのレポートも早速出題され解説に苦勞したため、ひととおり検査のレポートは目を通し解釈できるようにしておくことをお勧めします。記述問題は基礎的な分子病理の知識と疾患の幅広い知識、応用力、実地経験などがフルで求められ難しく感じました。付け焼き刃の勉強ではこの程度で当然かといった感じで、EPに出席したりCGPの結果に目を通す以外にも、日頃から疾患の遺伝性背景も含め目を通したり、各臓器の遺伝性疾患の知識を増やすことなどを意識した方がよいと思います。

第5回分子病理専門医試験を受験して

富山赤十字病院病理診断科 前田 宜延

このたびは第5回分子病理専門医試験合格体験記の執筆の機会をいただき感謝申し上げます。一般病院勤務の病理専門医と

して、腫瘍から炎症まで種々の疾患の病理診断に専ら従事してきました。ゲノム連携病院ではない施設で分子病理とはやや距離を置きつつ相応の年月を過ごし、そこにコロナ禍も加わり、受験まではと自分自身で勝手に納得し日々の仕事に埋もれていました。しかしながら現実には思いのほか厳しく、昨今ではいろいろなコンパニオン診断の件数が急に右肩上がりとなるほか、がんゲノム治療の希望で拠点病院への紹介も多くなりました。一人病理医としてこれまでのようなスタンスで従事していると周囲からの要望に応えることが出来なくなるのではと感じるようになり分子病理専門医試験を受験するに至りました。

受験するにあたり、まずは試験対策となりますが、日常業務に埋もれている中、如何にして効率よく知識を身につけられるかといったところに重点を置きました。用いた資料等はこれまでの合格体験記にあるものと大きく異なるものでないと思われませんが、「がんゲノム病理学」、「分子病理専門医講習会テキスト」に専らお世話になりました。「分子病理専門医講習会テキスト」はやはり試験対策の根幹になるもので、自身の理解が不足している部分を中心に拾いあげ、理解をしっかりとさせるとともに知識を拡充することにも努めました。この際、「がんゲノム病理学」の中にある練習問題は効率よくまとめるのに役立ちました。本文を通読し理解したつもりでいても十分でないことを再認識させてくれるものでもありました。

II型問題の論述対策をいかに行っていくが難しいところでした。幸いなことに富山大学のエキスパートパネルに数多く参加する機会をいただき、C-CAT レポートの読み方や症例ごとの問題点を整理する時間が得られた点が大きかったです。CMETのエキパネ症例集が参考になったほか、「分子病理更新講習会」に参加し記述問題の考え方や進め方を聴講できたことが殊に役立ちました。

このたびの試験では分子病理専門医をいただきましたが、自身の至らなさが改めて浮き彫りになり、今後より一層の取り組みをしていかなければと肝に銘じている次第です。

寄稿の機会を賜りましたこと心から感謝申し上げますとともに、これらから分子病理専門医を目指す先生方の少しでもご参考になれば幸いです。

分子病理専門医合格体験記

大阪公立大学大学院医学研究科 診断病理・病理病態学

塩原 正規

3ヶ月前から分子病理専門医の試験勉強を開始しましたが、病理専門医や細胞診専門医の試験と比べると、仕事と並行しての勉強時間の確保は決して十分とは言えませんでした。

主な勉強教材は、分子病理専門医講習会テキストに加え、『がんゲノム病理学 第1版』、そして e-Precision Medicine Japan の e-Learning サイトです。コンパニオン診断薬については、上記のテキストに加えて PMDA のウェブサイトから最新のリスト

を入手し、確認することを強くお勧めします。

振り返ってみると、講習会テキストと『がんゲノム病理学』の練習問題を重点的に学習すれば、ある程度の得点は期待できると感じています（あくまで個人の感想です）。特に、腫瘍含有率と VAF の関係については、「病理と臨床 2024 年 1 月号（42 巻 1 号）」の「がん遺伝子パネル検査と病理診断」の解説が非常に参考になりました。

エキスパートパネルを意識した対策としては、Druggable な遺伝子異常、特に MSI/TMB、BRCA 変異/HRD、NTRK などに焦点を当てて学習することが重要です。どのような検査を実施することで治療に繋がるのかという視点が求められます。がんゲノム診療の制度については、講習会テキストの内容をしっかりと理解していれば十分でしょう。

遺伝子検査に関する知識は、単なる暗記ではなく、原理の理解が不可欠です。FISH プローブやプライマーの作製経験がある方は有利になるかもしれません。各臓器の腫瘍に特徴的な遺伝子異常については、e-Precision Medicine Japan の e-Learning サイトの習熟度テストが非常に役立ちました。

遺伝子異常に関する深い知識の追求は重要ですが、過度に時間を費やし、記述問題対策がおろそかになるのは避けるべきです。私自身、この部分に時間をかけすぎたため、記述問題対策が不十分だったと反省しています。記述問題対策には適切な教材の確保が重要です。加点方式とはいえ、闇雲に書けば良いというわけではなく、参考となるフォーマットが必要です。e-Precision Medicine Japan の e-Learning サイトにも「エキパネ症例集」がありますが、解説が簡潔で記述問題の参考にするには難しいと感じました。私が最も参考になったと感じるのは、『がんゲノム病理学』に掲載されている症例問題です。

今回の試験を振り返ると、講習会テキストと『がんゲノム病理学 第1版』の練習問題を最低限こなしておけば、ある程度の得点は確保できたように思います。教材としては、プレステーションメディスンも推奨されていましたが、実際には上記の2冊からの出題が多かった印象です。

II型の技術試験問題の対策は後手に回ってしまい、書き方のテンプレートも不足していたため、どの程度の分量を書けば良いのか最後まで掴みきれませんでした。専門用語の正確な理解は非常に重要で、質問の意味を理解できなければ記述することが難しく、得点率の低下に繋がります。今回は「**がん遺伝子パネル検査と病理診断**」に関する知識が特に重要だと感じました。

第5回分子病理専門医試験を終えて

滋賀医科大学附属病院病理診断科 藤本 汐莉

はじめに、幸いにも試験に合格することができましたが、今でもがんゲノムについては覚えられていない、理解できていないことが多いです。胸を張って分子病理専門医と名乗る気持ち

にはなれない自分ですが、誰かの参考になればという思いで寄稿させていただきます。

分子病理専門医を受けると決めてからは、まず「がんゲノム病理学」(文光堂)を読みました。「分からない単語を分からない単語で説明している」状態だったので、単語を検索して易しい言葉で説明しているサイトを見つけて、教科書に書き込んでいきました。さらっと読んだだけでは章末の練習問題を全然解けないことに気づき、2回目からは完全に試験対策として、試験の選択肢に出そうな事項を暗記用のノートにまとめました(例: TMB 高値を示す癌→…、リキッドバイオプシーでのCGPのメリット→…)。表にまとめられている項目も細かく覚える必要があり怯えました。これらを覚えてやっとI型問題の4割程度が解けるように思いました。

各臓器のがんゲノムの特徴については「がんゲノム医療時代の分子腫瘍学(病理と臨床2022年臨時増刊号)」(文光堂)の第3部B臓器がんにまとまっていたので、これも試験に出そうな事項をノートにまとめて、なんとか覚えました。各臓器のがんゲノムの知識は試験で割的に多くを占める訳ではありませんが、知らないと歯が立たない問題がI型でもII型でも出ていました。

II型問題については分子病理専門医講習会のII型問題についての解説を聞いて何をすべきか理解した後に「がんゲノム病理学」の症例問題(分子病理専門医II型問題に相当)を解きました。遺伝子変異の生物学的意義付けなどのエキスパートパネル記録の作成は機械的にできるよう練習しました。試験を受けてみて、II型問題では実際のエキスパートパネルで話題になりそうな点(出そうな遺伝子変異が検出されていないのは何故か、変異遺伝子が有名な腫瘍について組織像との関連など)が問われるため教科書での勉強のみでは対策は難しく、日々の診断で疑問に思った時に調べて解決していくことが必要だと思いました。

最後に、II型問題の試験の前に試験官の先生が「とにかく書けることは何でも書いてください」と言われたことを鵜呑みにして、関連があるのか自信がないことも解答欄にたくさん書きましたが、それらが思ったより点数に繋がったように思うので、言われたままに何でも書くことをお勧めします。私は普段からの知識がなさすぎて試験対策に重きを置いた勉強になってしまいましたが、それでも勉強したことで分子病理というものに対する苦手意識が少し減りました。今後もますます分子病理の知識が必要とされるだろうと思うので、日々少しずつ勉強して追いついていきたいです。

第5回分子病理専門医試験 合格体験記

津山中央病院 三宅 孝佳

このたび、第5回分子病理専門医試験に合格いたしました。分子病理専門医という資格は以前から耳にするものの、当初は

病理専門医取得後の資格の位置づけや施設要件などの関係について理解しておらず、受験は念頭にありませんでした。しばらくすると近隣の先生方が合格されたとの話が伝わってくるようになり、そろそろ受験してはどうかという天の声も聞こえてきました。

試験は一日制とのこと。国家試験はかつて三日制の時代もあったそうですが、二日制だった国家試験や専門医試験に比べてもそれほど困難ではないはず。そこで受験要件について調べてみました。分子病理専門医講習会やゲノム病理標準化講習会の受講は問題ありません。しかし、エキスパートパネル出席記録が問題となりました。当時エキスパートパネルはがんゲノム医療中核拠点病院である岡山大学病院で行われており、出席が難しかったためです。

そのまま放置に至ります。

その後、弊院もがんゲノム医療連携病院に指定され、エキスパートパネルにオンライン出席が可能となり、ようやく受験要件を満たす見通しがたちました。まず始めたのは毎週のエキスパートパネルへの出席です。ゲノム検査は実際の運用現場に触れることが大切と感じたためです。はじめは異国の言葉のようでも、一年ほど出席し続けると、徐々に理解が追いついてきました。

分子病理講習会も受講し、出願完了です。いよいよ試験も近づいてきました。対策としての座学です。先達によれば、「青い本」(がんゲノム病理学(文光堂))をやればよいとのこと。一日一章ずつ進めて一週間で一周。二-三周して約一月かかりました。II型対策については、いくつか定型文を用意して対応することにしました。なお、「青い本」は当時改版されておらず、記述が古い部分もありましたので、残りの時間で新しいエビデンスや診断基準に目を通すなどしました。

以上の準備を経て試験に臨みました。幸運にも合格しましたので以下感想です。I型問題では正解の個数がわからない問題があり、解答に困りました。ストックされている問題が多くないためと思われませんが、将来的にはCBTの導入が望まれます。II型問題では解答欄の広さと必要な記述量がマッチしておらず、解答しづらい問題がありました。なお、問題用紙、解答用紙ともに鉛筆で書きこみにくい素材で、それにも困らされました。また、法令やガイドラインに関する出題がありましたが、どの時点の内容に準拠しているか不明確でした。今後は法律系国家資格のような、受験要綱に「〇年〇月現在の法令、ガイドラインに基づく」等の記載が必要と思われれます。

小生も齢50となりました。病理専門医として十有余年、折り返しに近づいてきておりますが、残りの病理医人生は分子病理専門医として、より一層患者様のお役に立ってゆく所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

第5回分子病理専門医試験 合格体験記

浦添総合病院 中江 正和

この度は、第5回分子病理専門医試験に関する合格体験記を寄稿する機会をいただき、誠にありがとうございます。微力ながら、今後受験を検討されている先生方のご参考になれば幸いです。

私は2022年に病理専門医を取得した翌年に第4回分子病理専門医試験を初めて受験しました。勤務先は地方の市中病院ですが、近年は臨床医からゲノム関連の依頼が多くあり、これらの知識が必要不可欠になってきていると実感していました。また、分子病理の分野は進歩が速く、年々試験問題の範囲が広がっていくことが予想され、「受験するなら早い方がいいよ」とのアドバイスもあり、受験することを決意しました。

第4回試験ではI型問題で3点足りず不合格となりました。I型問題はマークシート方式なので「何とかなるだろう」と高を括っていたのですが、細かな知識を問う問題や「全て選べ」の多肢選択問題に苦戦し、知識の曖昧さや理解の浅さを痛感しました。

第5回試験の対策は「分子病理専門医講習会」が終わったところから業務の合間を縫って取り組み始めました。「ゲノム分子病理学」などを通読した後に、I型問題対策として「分子病理講習会ハンドアウト」や「ゲノム研究用・診断用病理組織検体取扱い規程」などで正確な知識の定着に努めました。II型問題に関しては、勤務先が「がんゲノム連携病院」ではなく、エキスパートパネルに継続して参加できる環境ではなかったため、「ゲノム分子病理学」や「CEMIT」などの症例問題を活用し、解答作成の練習を重ねました。

試験本番では、I型問題に関してはある程度の手応えを得ることができましたが、II型問題は第4回試験より難易度が上がっている印象で、合格点に達している自信はありませんでした。全く知識のない問題も出題され戸惑いましたが、C-CAT調査結果から関連する部分を拾い上げ部分点を稼ぐ作戦が功を奏したのか、何とかギリギリ合格点に達することができました。

分子病理専門医試験を通じてゲノム医療に対する理解を深めることができたと思っていましたが、試験で知識不足を痛感させられました。常に進歩している分野でもあり、これからも精進していきたいと考えております。

最後に、受験にあたりご指導・ご支援くださった諸先生方に、この場をお借りして改めて心より御礼申し上げます。

三度目の正直

鹿児島大学病院 病理部・病理診断科 東 美智代

三度目の受験で、ようやく合格を手にすることが出来ました。嬉しかったのが半分、ほっとしたのが半分。そのような時、原稿執筆依頼を受諾するには若干のためらいがありました。決して易しくはない(と思いたい)が、2回連続で落ち、三度目に、

ようやく合格出来た人間が、このような原稿を書いて良いのか。黙っていれば三度受けた、二度落ちた、ということを経験する多くの人に知られずに済むのに、とも思いました。が、取り繕っても仕方ない、このような体験を披露するのも何かの役に立つかも、と取り組むことにしました。

まず、1年目。とりあえず受験しました、状態。覚えなければならぬことと、自分の知識量との差が大きく、ただただ呆然とするばかり。試験が近づくと焦りが募り、知識は身に付かず。2年目は、1年目の経験を踏まえ、1年目よりは努力しましたが、結果は不合格。届いた試験結果を眺め、「昨年よりは結果は良くなっている、次は何とかなるかもしれない。」と、懲りもせずに三度目の受験を決めました。

3年目は、それまでの経験を活かし、可能な限りの時間と労力を試験対策に注ぎ込み…とは、いきませんでした。自分のために使える時間は徐々に減り、記憶力、集中力、体力、回復力も徐々に落ちていくばかり。増したのは鈍感力ぐらい。3回とも受験前や受験中に過度の緊張感に襲われることはなく、ほぼ平常心で臨むことができました。

受験して良かったことは、第一には、勉強しないといけないことを自覚し、勉強しないといけない状態に追い込まれたことです。病理専門医試験、細胞診専門医試験の受験以来、二十年振りの試験。しかも、前者は日常診療の延長で、受験勉強らしいことは殆どしなくても合格できましたが、分子病理専門医試験はそういうわけにはいきませんでした。何せA, T, G, Cが、かろうじて記憶に残っていた、という高校生物以下のレベル。合格レベルに持つていくには地道に勉強するしかなく、知識の定着には時間はかかったものの、結果は確かに積み上げられていました。

次に、自分のデジタル化を進めることができました。必要資料はスキャンしてデジタル化、その整理に徐々に新しいアプリに挑戦。私のiPad miniは読書端末から少し進化しました。そして、デジタル化した文書は大きく拡大できる、という利点によりやく気づきました。

マークシート方式とはいえ、正確な知識を知っていなければ正答できない、あやふやな知識では痛い目にあう絶妙の選択肢。日頃、学生の試験問題作成に携わっている立場としては大変参考になりました。

ようやく手にした認定証。よく見ると、有効期限“現病理専門医認定終了まで”!? 今年2025年が専門医更新の年なので、有効期限1年未満。もうしばらくすると、更新のための書類作成に悩まされそうです。

== 支部報告 ==

-- 関東支部 -----

関東支部会報編集委員 林 雄一郎

開催報告

第 106 回日本病理学会関東支部学術集会のお知らせが下記の
日程で開催されました。

日 時：2025 年 6 月 7 日（土）

開催形式：会場（大宮ソニックシティ小ホール）開催と
LIVE 配信のハイブリッド形式

世話人：自治医科大学附属さいたま医療センター
病理診断科 大城 久先生

テーマ：リンパ腫の病理診断 up to date

教育講演：リンパ腫分類 WHO 第 5 版について

演者 中村 直哉先生

（東海大学医学部基盤診療学系病理診断学）

座長 竹内 賢吾先生

（公益財団法人がん研究会 がん研究所病理部 がん研究所
分子標的病理プロジェクト がん研有明病院臨床病理センター）

一般演題：中咽頭に発生した hyalinizing clear cell carcinoma の一例

演者 高原 嘉祥先生

（国立がん研究センター東病院 病理・臨床検査科）

座長 岡部 直太先生

（自治医科大学附属さいたま医療センター病理診断科）

ミニレクチャー 1：小児のリンパ腫の特徴と診断の進め方

演者 中澤 温子先生

（埼玉県立小児医療センター 臨床研究部）

座長 百瀬 修二先生

（埼玉医科大学総合医療センター病理部）

ミニレクチャー 2：Hodgkin リンパ腫とその鑑別疾患

演者 百瀬 修二先生

（埼玉医科大学総合医療センター病理部）

座長 中澤 温子先生

（埼玉県立小児医療センター 臨床研究部）

特別講演：リンパ腫診断のトリビア—稀な病型や診断のピットフォール
を含めて—

演者 竹内 賢吾先生

（公益財団法人がん研究会 がん研究所病理部 がん研究所
分子標的病理プロジェクト がん研有明病院臨床病理センター）

座長 中村 直哉先生

（東海大学医学部基盤診療学系病理診断学）

開催予定

107 回学術集会：

日 時：2025 年 9 月 13 日（土）東京歯科大学

2025 年度サマーセミナー：

日 時：2025 年 9 月 20 日（土）順天堂大学

-- 中部支部 -----

中部支部会報編集委員 浦野 誠

第 28 回日本病理学会中部支部スライドセミナー

日 時：2025 年 3 月 15 日（土）

会 場：名古屋大学病院講堂

世話人：加留部 謙之輔先生

（名古屋大学大学院医学系研究科 臓器病態診断学分野）

テーマ：リンフォマニアが苦手な血液病理学

参加者：133 名

座長：加留部謙之輔

講演 1

「非腫瘍性リンパ増殖性疾患」

佐藤康晴先生

（岡山大学学術研究院保健学域 分子血液病理学）

講演 2

「WHO 第 5 版時代における骨髓生検の有用性」

茅野秀一先生

（埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科）

講演 3

「組織球系・樹状細胞腫瘍の診断」

大江倫太郎先生（山形大学 病理診断学講座）

【症例検討】

座長：佐藤 啓（名古屋大学医学部附属病院病理部）

S2025-1 藤田医科大学病院 露木悠太 リンパ節 70 代 女性

Follicular lymphoma with predominant diffuse growth pattern

外陰部 Paget 病例の鼠径リンパ節に生じた濾胞性リンパ腫で、びまん性増殖領域を伴い CD23 に陽性を呈していた。14；18 転座陰性が多いことが述べられ、節性濾胞辺縁帯リンパ腫との鑑別について討論があった。

S2025-2 藤田医科大学岡崎医療センター 西島亜紀 後腹膜 20 代 女性

Follicular dendritic cell sarcoma

臨床的に脾 SPN が疑われていた後腹膜病変。CD23, cyclin D1, D2-40 が陽性であったが、CD21 陰性の点が pitfall であった。FDCS の診断アルゴリズム、予後不良因子について解説がなされた。

S2025-3 KDP 病理診断クリニック・磐田市立総合病院病理 谷岡書彦
骨髓 50 代 男性

Chronic myeloid leukemia/ MPN with concurrent BCR::ABL1 and JAK2V617F mutation

BCR::ABL 転座を認めたにも関わらず白血球増多はなく、組織像が定型的な CML と異なり PV 的であった症例。JAK2V617F 変異が併存していたが、TKI 投与で変異は消失した。

S2025-4 藤田医科大学病院 病理診断科 杉本暁彦 脳 60 代 女性

Erdheim-Chester disease (ECD)

小脳周囲～髄膜に沿って画像診断で脂肪の輝度をもつ病変が広がっていた。両腎の腫大、両側性骨硬化を伴っており、BRAF, CD163 に陽性であった。ECD は時系列で多彩な像を呈することが述べられた。

S2025-5 名古屋大学医学部附属病院 病理部 八木春奈 軟部 30代 男性
ALK-rearranged mesenchymal neoplasm with Castleman disease-like features
単中心性 Castleman 病と炎症性筋線維芽細胞腫瘍様の像が混在していた
腹腔内病変。ALK 陽性の複数種類の細胞増殖がみられ、濾胞樹状細胞、
fibroblastic reticular cell, 筋線維芽細胞の関与が示唆された。

【第 93 回日本病理学会中部支部交見会 優秀演題賞
受賞者】

学術奨励賞 白木健太先生 (赤十字愛知医療センター
名古屋第一病院)

学術奨励優秀発表賞 山田勢至先生 (藤田医科大学)

次回学術集会予定

第 95 回日本病理学会中部支部交見会

日 時: 2025 年 12 月 20 日 (土)

場 所: 名古屋医療センター講堂

世話人: 西村理恵子先生 (名古屋医療センター)

第 29 回日本病理学会中部支部スライドセミナー

日 時: 2026 年 3 月 14 日 (土)

場 所: 名古屋大学病院

世話人: 岩崎 靖先生 (愛知医科大学)

テーマ: 神経病理

東海病理医会 検討症例報告

第 409 回

(2024 年 12 月 14 日 参加者 9 名 於: 藤田医科大学)

症例番号/病院名/病理医/年齢 (才代)/性/臓器/臨床診断/病理組織学的診断

5875/藤田医大ばんだね/浦野 誠/80/女/心・肝/脾癌肝転移

Clostridial gas gangrene

5876/藤田医大岡崎医療セ/中川 満/60/女/肺/肺癌/

Metastatic malignant melanoma, susp

5877/藤田医大岡崎医療セ/中川 満/20/女/結腸/結腸嚢胞/

Peritoneal mucinous cystadenocarcinoma

5878/藤田医大/近藤由佳/20/女/腎/腎癌/

TFE3-rearranged epithelioid angiosarcoma

5879/大同/小島伊織/10/男/骨/足趾腫瘍/

Periosteal chondroma

5880/大同/小島伊織/90/男/軟部/粉瘤/

Myxofibrosarcoma

5881/大同/小島伊織/70/女/リンパ節/悪性リンパ腫疑い/

SLE lymphadenitis

5882/鈴鹿中央/村田哲也/9/男/リンパ節/悪性リンパ腫/

Rosai-Dorfman disease

5883/津島市民/市原亮介/60/女/皮膚/粉瘤/

Dermatofibrosarcoma protuberans

第 410 回

(2025 年 1 月 18 日 参加者 22 名 於: 藤田医科大学)

5884/藤田医大ばんだね/浦野 誠/50/女/乳腺/乳房腫瘍/

Invasive lobular carcinoma with solid growth pattern

5885/諏訪中央総合/浅野功治/20/女/下顎骨/含菌性嚢胞/

Odontogenic fibroma

5886/名古屋大/八木春奈/60/女/子宮/子宮体癌・乳癌/

Metastatic pleomorphic invasive lobular carcinoma

5887/名古屋大/八木春奈/20/男/脳/脳幹部腫瘍/

Diffuse midline glioma, H3K27-altered

5888/名古屋大/八木春奈/70/男/リンパ節/悪性リンパ腫疑/

Myeloid sarcoma

5889/岐阜大/小林一博/70/女/心臓/心筋症疑/

Cardiac MICE

5890/岐阜大/小林一博/50/女/十二指腸/十二指腸腫瘍/

Gangliocytic paraganglioma

5891/岐阜大/小林一博/50/女/子宮/STUMP 疑/

Leiomyoma with bizarre nuclei

5892/江南厚生/柳田恵理子/80/女/卵巣/卵巣腫瘍/

Clear cell carcinoma, AFP-producing

5893/鈴鹿中央総合/村田哲也/80/男/直腸/直腸癌/

Adenocarcinoma in sessile serrated lesion with Pagetoid spread

5894/藤田医大岡崎医療セ/西島亜紀/70/女/小腸/GIST 疑/

Peritoneal mesothelioma, epithelioid type

5895/トヨタ記念/一安泰祐/70/女/腹膜/腹膜結節/

Well differentiated papillary mesothelial tumor

5896/トヨタ記念/島 寛太/20/男/骨髄/伝染性単核球症/

Systemic EBV positive T cell lymphoma of childhood

5897/大同/小島伊織/40/男/結腸/大腸ポリープ/

Cancer in adenoma, pTis with morular change

5898/大垣市民/岩田洋介/70/男/口蓋/口蓋腫瘍/

Secretory carcinoma

第 411 回

(2025 年 2 月 15 日 参加者 15 名 於: 藤田医科大学)

5899/清水厚生/浦野 誠/50/女/胃/胃ポリープ/

Raspberry-like foveolar-type adenoma

5900/藤田医大ばんだね/浦野 誠/40/女/胃/胃ポリープ/

Raspberry-like gastric-type adenocarcinoma, invasive

5901/藤田医大ばんだね/浦野 誠/50/女/子宮/子宮頸癌/

Adenocarcinoma, HPV-independent mesonephric type

5902/トヨタ記念/一安泰祐/60/男/軟部/皮下腫瘍/

Spindle cell lipoma, pseudoangiomatous variant

5903/藤田医大/露木悠太/60/女/腎/腎腫瘍/

CD99-positive sarcomatoid tumor?

5904/岐阜大/松本宗和/60/女/副鼻腔/蝶形骨洞炎/

Aspergillosis and chromoblastomycosis

5905/岐阜大/小林一博/60/男/皮膚/薬疹疑い/

Drug eruption with epidermal ring mitosis

5906/岐阜大/酒々井夏子/70/女/唾液腺/顎下腺腫瘍/

Epithelial-myoepithelial carcinoma ex pleomorphic adenoma

5907/鈴鹿中央/村田哲也/60/男/胃/胃癌/

Poorly differentiated adenocarcinoma and IgG4-related disease

5908/名古屋大/八木春奈/60/男/縦隔/脂肪肉腫疑い/

Well differentiated liposarcoma with degeneration

5909/名古屋大/八木春奈/60/男/副鼻腔/上顎腫瘍/
Osteosarcoma
5910/大同/小島伊織/40/男/膀胱/膀胱癌/
Urothelial carcinoma with trophoblastic differentiation
5911/大同/小島伊織/60/男/肝/肝腫瘍/
Focal nodular hyperplasia in alcoholic liver
5912/藤田医大岡崎医療セ/中川 満/40/女/外陰/外陰腫瘍/
Angiomyofibroblastoma
5913/中部国際医療セ/杉山誠治/60/男/心/急性心筋梗塞/
Myocardial infarction with epsilonophilia, probably due to allergic reaction

第 412 回

(2025 年 3 月 22 日 参加者 15 名 於：藤田医科大学)

5914/藤田医大ばんだね/浦野 誠/70/男/軟部/後頭部皮下腫瘍/
Spindle cell lipoma with prominent myxoid matrix
5915/藤田医大/佐藤 恵/40/女/腎/腎腫瘍/
Metanephric adenoma
5916/トヨタ記念/一安泰祐/50/男/皮膚/耳介部嚢胞/
Idopathic cystic chondromalacia
5917/藤田医大/南口早智子/20/女/腹膜/卵巣癌疑い/
Peritoneal mesothelioma, biphasic type
5918/鈴鹿中央総合/村田哲也/70/女/胃/自己免疫性胃炎疑い/
Cytomegalovirus gastritis
5919/トヨタ記念/島 寛太/50/男/大脳/high grade glioma 疑い/
Demyelinating disease
5920/大垣市民/黒川 景/70/女/鼻腔/鼻腔腫瘍/
Glomangiopericytoma
5921/津島市民/市原亮介/80/男/リンパ節/回腸潰瘍/
Follicular lymphoma
5922/津島市民/市原亮介/50/女/皮膚/尋常性疣贅/
Trichofolliculoma, suspect
5923/津島市民/市原亮介/40/女/皮膚/鼻根部皮下腫瘍/
Benign biphasic adnexal tumor
5924/一宮西/野村宣徳/40/女/子宮/子宮筋腫/
Cellular leiomyoma

第 413 回

(2025 年 4 月 5 日 参加者 21 名 於：藤田医科大学)

5925/藤田医大病理診断セ/露木悠太/70/女/皮膚/下腿腫瘍/
Cribriform tumor
5926/大同/小島伊織/40/男/上顎洞/歯性上顎洞炎/
Oncocytic papilloma
5927/大同/小島伊織/50/男/舌/舌腫瘍/
Lingual osteoma
5928/諏訪中央総合/浅野功治/70/女/皮膚/転移性皮膚腫瘍/
Atypical intradermal smooth muscle neoplasm
5929/中部国際医療セ/杉山誠治/50/男/耳下腺/耳下腺腫瘍/
Mucoepidermoid carcinoma, low-grade
5930/藤田医大岡崎医療セ/中川 満/40/女/子宮/子宮頸部腫瘍・卵巣腫瘍/
Cervical gastric-type adenocarcinoma, metastasis
5931/トヨタ記念/島 寛太/60/女/胆嚢/胆嚢癌疑い/
Hepatoid carcinoma
5932/トヨタ記念/島 寛太/50/女/肺/転移性肺腫瘍/
Metastasis of malignant glomus tumor, suspect

5933/藤田医大岡崎医療セ/西島亜紀/50/女/大動脈/感染性動脈瘤/
Intimal sarcoma, suspect

第 414 回

(2025 年 5 月 17 日 参加者 17 名 於：藤田医科大学)

5934/藤田医大ばんだね/浦野 誠/70/男/結腸/潰瘍性大腸炎/
Diffuse large B cell lymphoma, EBV (+) in immunosuppressive state
5935/蒲郡市民/浦野 誠/50/男/副腎/副腎腫瘍/
Myelolipoma
5936/藤田医大/近藤由佳/70/男/脊髄/脊髄腫瘍/
Treatment-related prostatic neuroendocrine carcinoma, metastasis
5937/大同/小島伊織/70/女/小脳/小脳腫瘍/
Hemangioblastoma
5938/大同/小島伊織/50/女/皮膚/後頭部皮下腫瘍/
Proliferating trichilemmal tumor
5939/大同/小島伊織/60/女/口蓋/口蓋腫瘍/
Epithelioid hemangioma, suspect
5940/藤田医大岡崎医療セ/中川 満/70/男/大脳・肺/転移性脳腫瘍/
Pulmonary choriocarcinoma, metastasis
5941/藤田医大岡崎医療セ/西島亜紀/70/女/縦隔/胸腺腫/
Thymoma, B2
5942/中部国際医療セ/杉山誠治/80/女/直腸/直腸腫瘍疑
Pseudo lipomatosis
5943/大垣市民/黒川 景/80/女/子宮/子宮体癌/
Endometrioid carcinoma, G3
5944/大垣市民/黒川 景/80/女/腎/腎癌/
Renal oncocytoma

第 415 回

(2025 年 6 月 7 日 参加者 16 名 於：藤田医科大学)

5945/藤田医大ばんだね/浦野 誠/50/男/縦隔/縦隔腫瘍/
Parathyroid cyst
5946/中部国際医療セ/杉山誠治/80/女/リンパ節/悪性リンパ腫/
Follicular lymphoma, recurrence, CD79a-negative
5947/藤田医大岡崎医療セ/中川 満/70/男/胃/胃粘膜下腫瘍/
Heterotopic submucosal gland with exuberant stroma proliferation
5948/藤田医大岡崎医療セ/西島亜紀/60/男/肺/転移性肺腫瘍/
Pneumocystis jirovecii infection
5949/藤田医大/小林一博/40/男/軟部/膝軟部腫瘍/
Tophus
5950/藤田医大/小林一博/50/女/皮膚/足母斑細胞性母斑/
Acral malignant melanoma collision with melanocytic nevus
5951/藤田医大/小林一博/70/女/皮膚/薬疹疑い/
Enfortumab vedotin-induced cutaneous eruption

-- 近畿支部 -----

近畿支部会報編集委員 竹内 康英

I. 活動報告

a) 日本病理学会近畿支部第 109 回学術集会

日本病理学会近畿支部第 109 回学術集会が下記の内容で開催されました。

検討症例、画像等につきましては近畿支部ホームページ (<http://jpsk.umin.jp/>)にて閲覧可能です。アカウント・パスワードの必要な方は近畿支部事務局 (kinpatho@kuhp.kyoto-u.ac.jp)までお尋ね下さい。

世話人：孝橋賢一先生（大阪公立大学大学院医学研究科
診断病理・病理病態学）

モデレーター：原 重雄先生（神戸市立医療センター
中央市民病院 病理診断科）

テーマ：腎臓（非腫瘍）

9:00～9:05

開会の挨拶：原 重雄先生
（神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科）

9:05～11:00

症例検討発表

座長：安原裕美子先生（堺市立総合医療センター病理診断科）

症例検討 1026（教育症例）

『直腸癌術後フォローアップの画像検査で指摘された脾腫瘍の一例』

森井大智先生、他（大阪大学医学部附属病院病理診断科）

症例検討 1027（教育症例）

『肝腫瘍の一例』

土山実可子先生、他（和歌山県立医科大学人体病理学教室）

座長：藤田茂樹先生（住友病院病理部）

症例検討 1028（教育症例）

『子宮頸部腫瘍の一例』

池本彩花先生、他（奈良県立医科大学病理診断学）

症例検討 1029（教育症例）

『外陰部腫瘍の一例』

井上真生先生、他（大阪大学大学院医学系研究科病態病理学講座/
大阪大学医学部附属病院 病理診断科）

座長：寺本祐記先生（京都大学医学部附属病院病理診断科）

症例検討 1030（教育症例）

『蛋白尿とM蛋白血症のみられた一例』

坂井田美穂先生、他（大阪市立総合医療センター病理診断科）

症例検討 1031（教育症例）

『繰り返す急性腎障害をきたした一例』

内本梓先生、他（神戸市立医療センター中央市民病院病理診断科）

症例検討 1032（希少症例）

『ミトコンドリア病患者の腎生検の一例』

兵頭俊紀先生、他（神戸大学医学部附属病院病理診断科）

（2025年1月の学術委員会、同2月の幹事会での議論を受け、より関連な議論・演題登録の促進のため、症例検討の番号の直後に『教育症例』（典型的な症例など、教育的効果に主眼をおいた発表）、『希少症例（診断に難渋した疾患など、関連な議論を目指した発表）』などの区分を併記しています。）

11:00～12:30 休憩（※11:15～12:15 幹事会開催）

12:30～13:00

令和7年度近畿支部総会・令和6年度人体病理学学術奨励賞授与式

13:00～14:00

特別講演

座長：原 重雄先生

（神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科）

『腎生検で診断される主な疾患と臨床経過』

正木崇生先生（広島大学病院腎臓内科）

14:00～14:20 休憩（20分間）

14:20～15:20

病理診断講習会（1）（2）

座長：岡 一雅先生（兵庫県立西宮病院病理診断科）

14:20～14:50 病理診断講習会（1）

『From basic to advanced. Three stage lessons for renal pathology interpretation : ANCA 関連腎炎と感染関連腎炎』

益澤尚子先生（市立大津市民病院 病理診断科）

14:50～15:20 病理診断講習会（2）

『M蛋白血症関連腎疾患の病理所見』

上杉憲子先生（福岡大学医学部病理学講座）

15:20～15:40 休憩（20分間）

15:40～16:40

病理診断講習会（3）（4）

座長：福島裕子先生（大阪市立十三市民病院 病理診断科）

15:40～16:10 病理診断講習会（3）

『小児科領域で遭遇することの多い腎疾患の病理診断』

松岡健太郎先生（東京都立小児総合医療センター 病理診断科）

16:10～16:40 病理診断講習会（4）

『移植後の時期から考える移植腎病理の鑑別診断』

原 重雄先生（神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科）

16:40～16:50 閉会の挨拶、次回開催案内

羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院 病理診断科）

II. 今後の活動予定

a) 第110-112回学術集会のお知らせ

第110-112学術集会は現地開催を予定しております。専門医資格更新単位の発行を予定しています。参加登録方法などの詳細は近畿支部ホームページにて案内予定です。

第110回（令和7年9月27日（土）正午開始（予定））：
現地開催）

テーマ：消化管（最新のトピックス）

～胃・十二指腸の胃型腫瘍、大腸の髄様癌 vs 充実型低分化腺癌など～

モデレーター：岸本光夫先生（京都市立病院）、森永友紀子先生（京都府立医科大学）

世話人：小嶋基寛先生（京都府立医科大学）

開催会場：京都府立医科大学附属図書館・合同講義棟
合同講義室

第 111 回 (令和 7 年 12 月 6 日 (土): WEB 開催)
テーマ: 肝臓 (腫瘍)
世話人・モデレーター: 羽賀博典先生 (京都大学)

第 112 回 (令和 8 年 2 月 28 日 (土): 現地開催)
テーマ: 頭頸部病理
モデレーター: 宇佐美 悠先生 (大阪大学)、
重岡 学先生 (神戸大学)
世話人: 豊澤 悟先生 (大阪大学)
開催会場: 大阪大学・日本財団感染症センター大ホール

詳しくは近畿支部ホームページをご参照ください。

b) 令和 7 年度「夏の学校」開催のご案内

名称: 夏期病理セミナー「夏の学校」2025 年
日時: 令和 7 年 8 月 16 日 (土) 13:00~16:40 予定
(※ 12:00~ 受付開始 ※ 17:00~ 懇親会)
テーマ: 「細胞も驚く! パソロジー万博 (満腹) !」
~学びも笑いも“くらわんか”でお腹いっぱい!~

企画: 関西医科大学 病理学講座
世話人: 蔦 幸治先生 (関西医科大学病理学講座)
会場: 関西医科大学医学部棟 1 階 加多乃講堂
対象者: 医学部生、歯学部生、初期研修医
募集人員: 100 名
受講料・懇親会料: 無料
参加申込方法: Google フォームからの事前申込登録制です。
申込受付期間: 令和 7 年 5 月 19 日 (月) 開始
~令和 7 年 8 月 13 日 (水) 午後 3 時締切

プログラム:

12:00~受付

13:00~13:10

開会の挨拶

関西医科大学病理学講座 蔦 幸治先生

第壱部: ワーク・ライフ・バランス時代の病理のススメ

13:10~14:00

「病理医だって開業できる」

意外に知られていない病理医のお仕事と生涯設計

学校法人慶應義塾病理診断クリニック

慶應義塾大学医学部がんゲノム医療センター 佐々木毅先生

第弐部: 国試・専門医試験の病理を徹底攻略!

14:15~14:45

「マクロ・ミクロ万博 (万腹)」

関西医科大学 病理学講座 野田百合先生

第参部: 一度聴いたら忘れない! がん細胞もツッコむ! お

笑い? 病理道場

15:00~15:30

「気をつけて そこが違うよ 海の外」

滋賀医科大学附属病院病理診断科 松原亜季子先生

15:30~16:00

「ミヤクミヤクと紡ぐ Bench to Bedside」

関西医科大学病理学講座 仲矢丈雄先生

16:00~16:30

「直びのススメ」

関西医科大学病理学講座 内田克典先生

16:30~16:40

閉会の挨拶

関西医科大学病理学講座 平野博嗣先生

17:00~

懇親会・近畿地区病理専門医研修プログラム紹介

お問合せ先: 日本病理学会近畿支部 事務局

kinpatho@kuhp.kyoto-u.ac.jp

詳しくは近畿支部ホームページをご参照ください。

-- 中国四国支部 -----

中国四国支部会報編集委員 水野 洋輔

開催報告

第 147 回学術集会

開催日: 令和 7 年 7 月 5 日 (土) 14:00~

スライドカンファレンス

世話人: 山口大学大学院 医学系研究科

分子病理学 伊藤浩史先生

開催形式: ハイブリッド開催

(山口大学医学部第一講義室+ Cisco Webex meetings で送信)

特別講演: 「胎盤の臨床病理学的検討」

宮崎大学病理学講座腫瘍形態病態学分野 佐藤勇一郎先生

※第 147 回学術集会の演題、出題者、出題者診断、最多投票などの詳細は、次号 (2025 年 10 月号) に掲載予定です。

-- 九州沖縄支部 -----

九州沖縄支部会報編集委員 立石 悠基

1. 活動報告

第 405 回九州・沖縄スライドカンファレンスが下記のように開催されました。

日時: 2025 年 5 月 17 日 (土) 13:00~16:30

場所: 九州大学病院地区 (臨床大講堂)

世話人: 九州大学大学院

形態機能病理学 教授 小田義直先生

構造病態病理学 教授 相島慎一先生

参加数: 181 名

第 405 回九州・沖縄スライドコンファレンス

臨床診断あるいは発表演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/
出題者診断/投票最多診断

座長：谷口 緑（飯塚病院病理科）

- 1 右耳下腺腫瘍/前川和也/宮崎県立宮崎病院/20 代男性/
Pleomorphic adenoma (with extensive squamous and goblet cell metaplasia)/
Mucoepidermoid carcinoma
- 2 舌腫瘍/田中一仁・大倉航平/熊本大学病院一くまもと森都総合病院/
20 代女性/
Mucosal neuroma/
Mucosal neuroma
- 3 鼻中隔後端有茎性腫瘍（バーチャル）/新城沙彩/琉球大学病院、沖縄県
立南部医療センター・こども医療センター/1 歳男性/
Heterotopic arachnoid/
Angiofibroma

座長：山本猛雄（九州大学形態機能病理学）

- 4 小腸病変・腫瘍/大栗伸行/宮崎大学 構造機能病態学/40 代女性/
Multiple gastrointestinal stromal tumor, with diffuse hyperplasia of interstitial
cells of Cajal/
Gastrointestinal stromal tumor
- 5 肝腫瘍（バーチャル）/下村麻里/熊本大学病院/70 代男性/
Hepatocellular carcinoma, moderately differentiated, with somatically derived
germ cell carcinomatous component/
Hepatocellular carcinoma

座長：岩崎 健（九州大学形態機能病理学）

- 6 膀胱腫瘍/貝森峻・小山雄三/大分大学医学部診断病理学講座/80 代男性/
Invasive urothelial carcinoma with chordoid features/abundant myxoid stroma/
Urothelial carcinoma, sarcomatoid subtype
- 7 子宮腫瘍/遠矢雅人/九州大学形態機能病理学/60 代女性/
Uterine tumor resembling ovarian sex cord tumor (UTROSCT)/
Leiomyoma
- 8 脳病変（バーチャル）/北菌育美/鹿児島大学医歯学総合研究科病理学/
50 代前半女性/
Calcifying Pseudoneoplasm of the Neuraxis (CAPNON) with Interhemi-
spheric Osteolipoma and Agenesis of the Corpus Callosum/
Calcified pseudoneoplasm of the neuraxis
- 9 脳腫瘍（バーチャル）/坪本僚太/福岡大学医学部病理学講座/20 代女性/
Infant-type hemispheric glioma, ALK-altered/
Infant-type hemispheric glioma

また、第 405 回九州・沖縄スライドコンファレンスと同日に
2025 年度の日本病理学会九州沖縄支部のスラコン世話人会・
支部総会が下記のように開催され、以下の議題について承認さ
れました。

スラコン世話人会

日 時：2025 年 5 月 17 日（土）11：00～11：15

世話人幹事：九州大学大学院 形態機能病理学

教授 小田義直先生

出席者：世話人 72 名

1. 日本病理学会九州沖縄支部役員名簿（案）
2. 2025 年度スライドコンファレンス開催予定
3. 各施設の会員数・出題・投票・出席状況

4. 新規加盟施設と世話人交代
5. 2025 年度の標本配布施設について

支部総会

日 時：2025 年 5 月 17 日（土）15：00～16：00

支部長：産業医科大学 第一病理学

教授 久岡正典先生

出席者：支部会員 179 名

1. 報告事項

- 1) 各委員会からの報告
2024 年度優秀症例報告賞・学術委員会
業務委員会
若手病理医の会
支部コンサルテーション運用システム
ダイバーシティ推進委員会
ティーチングファイル委員会
- 2) その他の報告
2025 年度スライドコンファレンス開催予定
第 12 回秋の病理学校報告
第 13 回秋の病理学校について

2. 議題

- 1) 日本病理学会九州沖縄支部役員名簿（案）
- 2) 2024 年度決算報告
- 3-1) ホームページ改訂について
- 3-2) 2025 年度予算（案）
- 4) 支部 HP のバーチャルシステムについて
- 5) 400 回記念誌について

3. その他

事務局からのお願い

2025 年外部精度評価サーベイのご案内

病理学会委員会における九州沖縄支部関連者

病理学会支部委員会報告

病理専門医制度運営委員会からの報告

また、同日に共催セミナーが下記のように開催されました。

「胃癌における 22C3 抗体を用いた CPS 検査の臨床的意義」

講師：九州大学大学院 連携腫瘍学分野

助教 大村洋文先生

「自験例から考える腎癌病理診断で注意すべきポイント～非
淡明細胞型を中心に～」

講師：九州大学大学院 形態機能病理学 清澤大裕先生

座長：原三信病院 病理診断科 副部長 林 博之先生

共催：MSD 株式会社

2. 開催予定

第 406 回九州・沖縄スライドコンファレンス

開催日時：2025 年 7 月 12 日（土）Web 開催

（Webex meetings 使用）

世話人：琉球大学病院 病理部・病理診断科

教授 和田直樹先生

教授 金城貴夫先生

教授 川上 史先生

第 98 回九州病理集談会も同時開催されます。

第 407 回九州・沖縄スライドコンファレンス

開催日時：2025 年 9 月 20 日（土）現地開催

世話人：佐賀大学医学部 病因病態科学講座

診断病理学分野 加藤省一教授

佐賀大学医学部 病因病態科学講座

探索病理学分野 青木茂久教授

合同カンファレンス「婦人科」

臨床コメンテーター：佐賀大学医学部 産科婦人科学教室

准教授 奥川 馨先生

病理コメンテーター：熊本大学病院病理診断科

教授 三上芳喜先生

=====
病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mail など御投稿下さい。

病理専門医部会会報編集委員会：池田純一郎（委員長）、杉田真太郎（北海道支部）、鈴木麻弥（東北支部）、林雄一郎（関東支部）、浦野 誠（中部支部）、竹内康英（近畿支部）、水野洋輔（中国四国支部）、立石悠基（九州沖縄支部）